

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 札幌市 】

1 実践テーマ	【I、V】
2 実施対象者	札幌市立西小学校 3年生 136名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 総合的な学習の時間 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	児童がオリンピック・パラリンピックへの関心や理解を深め、「ふるさと札幌」を愛する心を育てる。
5 取組内容	総合的な学習「冬を楽しく」では、「雪」を通して、自分たちの地域への関心を深め、雪に親しんでいこうとする活動を行ってきた。 今回は元ノルディックスキーのオリンピック講師森敏氏の講話を聴講し、冬のオリンピックに対する理解を広げる。また、オリンピックミュージアム内の体験ブースで、ボブスレーやクロスカントリーといった冬季五輪種目を疑似体験する。更に、大倉山ジャンプ競技場のリフトで頂上へ上がり、学芸員からジャンプ競技にまつわる話を聞き、競技への理解を深める。 ○指導計画 [6時間扱い] [総合的な学習の時間] 6時間(+図工4時間) ・雪で何を楽しむことができるのかを考え、雪像作り、雪遊びへと結び付ける。各自、各グループで感じたことをワークシートに記入し交流する。 ・札幌オリンピックミュージアムに行き、オリンピック講師の講話を聴講し、冬のオリンピックに対する理解を深めたり、体験ブースで冬季五輪種目を疑似体験したりしながら雪でどんなことができるのかの理解と関心を深める。
6 主な成果	・森氏の講話は、自身が長野五輪に出場した際の映像を見せながら、ノルディック複合競技について説明した。その中で、子どものうちから様々なスポーツを体験することの大切さを伝えた。また、聖火リレーの始まりとなる採火式の様子も説明しながら、オリンピックの理念と意義についても理解していた。

	・「スポーツが苦手でも、勉強など様々なことに取り組むことで、道が開けてくるよ。」という言葉に子どもたちは感銘を受けていた。 ・ミュージアム内の体験活動では、ボブスレーやクロスカントリーなどの五輪種目に親しんだ。「冬にしかできないスポーツは自分たちの地域にある。」ということを改めて感じていた。展示されていたユニフォームや道具を初めて身近で見た児童が多く、雪国ならではの工夫がされていたことに驚いていた。冬季スポーツの魅力を大いに体感した活動となった。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	取組の内容に記載した通り。
8主な課題等	・札幌市でも本年度が初の取組ということで、学習の見通しが見つからないところがあった。しかし本活動に参加した児童の様子を見ると、総合的な学習で扱っている「冬」や「雪」の学習の発展、またはまとめの段階として扱える。「楽しみながら体験できる」「実際の体験者からの話が聞ける」ことが3年生という発達段階にもふさわしいと考える。
9来年度以降の実施予定	経費や講師の確保等、持続可能な仕組みづくりを検討している。